

# 病弱特別支援学校における個別の教育支援計画に対する教師の認識とその関連要因

関根 一美

## I 問題

平成 21 年告示の特別支援学校学習指導要領により、個別の教育支援計画の作成が明示された。関係機関との連携のツールとしてどう活用させていくかが個別の教育支援計画の重要な視点であるが、積極的な活用は半数以下であり様々な問題が指摘されている（菅野・一木・佐藤・西川・篠原・皆川, 2007）。また、様式や手続き等はその学校に勤務する教師に委ねられており、活用には教師の認識によるところが大きい。

村上(2006)は、病弱特別支援学校において、障害の重度化、多様化や、短期の入院等の増加により、新しい困難が発生したと指摘している。また、病類や子どもを取り巻く環境、情報提供のシステム化といった学校体制が個別の教育支援計画に対する教師の認識に影響を及ぼすことも考えられる。

## II 目的

病弱特別支援学校において、児童生徒のよりよい支援につながる関係者との連携のツールとしての個別の教育支援計画の在り方について検討するため、以下の点について明らかにする。

- 1 個別の教育支援計画に対する教師の認識（以下、教師の認識）
- 2 個別の教育支援計画をツールとした関係者との連携の実態（以下、連携の実態）
- 3 連携の実態と学校や児童生徒の特性が教師の認識に及ぼす影響

## III 方法

### 1 対象

全国の病弱特別支援学校（分校含む）92 校について、前籍校に戻った児童生徒を担当した小中学部教師と、個別の教育支援計画を推進する立場の教師 1 名に調査依頼し、協力の承諾を得た 65 校 191 名を対象に調査を行った。

## 2 調査方法

郵送による質問紙調査法を実施した。

## 3 調査項目

### 1) 推進する立場の教師への調査項目

児童生徒の病類や個別の教育支援計画の様式、研修の有無等、学校の特性に関する項目

### 2) 担任への調査項目

#### (1) 担任や対象児童生徒の特性に関する項目

担任の病弱特別支援学校経験年数、対象児童生徒の在籍期間や病類等

#### (2) 教師の認識を測定する質問項目

予備調査で作成した教師の認識を測定する 41 の質問項目について、5 件法での評定を依頼し得点化した。

#### (3) 連携の実態を測定する質問項目

予備調査で作成した連携の実態を測定する 40 の質問項目について、5 件法での評定を依頼し得点化した。

## 4 分析の視点

1) 連携の実態と教師の認識の構造を明らかにするために、因子分析を行う。

2) 連携の実態が、教師の認識に及ぼす影響を明らかにするために、連携の実態を独立変数、教師の認識を従属変数とする重回帰分析を行う。

3) 学校や児童生徒の特性が教師の認識に及ぼす影響を検討するために、学校や児童生徒の特性を独立変数、教師の認識を従属変数として分散分析を行う。

## IV 結果

65 校 191 名中、57 校 166 名（86.9%）から回答を得、そのうち、推進する立場の教師 50 名、担任 106 名を有効回答とした。

### 1 教師の認識と連携の実態の構造

因子分析の結果、教師の認識については、因子 I

表 1-1 認識因子Ⅰ「作成・活用による有用感」の測定項目と因子負荷量 ( $\alpha = .82$ )

負荷量	内容
.826	個別の教育支援計画の作成を通して、児童生徒に関する教師全員で協力して支援していこうとする意識が高まる
.802	個別の教育支援計画を用いて教師同士で話し合いを重ねることで、子ども一人一人の実態について、関係する教師全員で捉えようとする意識が高まる
.790	個別の教育支援計画の作成・活用は、児童生徒についてのより深い実態把握につながる
.713	個別の教育支援計画の活用を通して、教師同士で児童生徒について普段から話し合おうとする意識が高まる
.699	病弱教育における個別の教育支援計画の重要性について理解している
.646	短期間で前籍校に戻る児童生徒にとっても、個別の教育支援計画を作成することは重要である
.643	児童生徒にとって、個別の教育支援計画の作成は最優先で考えなくてはならない
.583	個別教育支援計画を作成することが、教師間における児童生徒の話し合いのきっかけになる
-.469	病弱児にとって、個別の教育支援計画の作成がよりよい支援につながるか不安である

表 1-2 認識因子Ⅱ「多忙による時間の制約」の測定項目と因子負荷量 ( $\alpha = .84$ )

負荷量	内容
.775	校務が多忙のため、医療機関と個別の教育支援計画について情報交換するための時間がとれない
.724	校務が多忙のため、保護者と個別の教育支援計画について話し合う時間がとれない
.707	個別の教育支援計画を作成する時間がとれない
.627	前籍校と情報交換するための時間がとれない
.622	教師同士で個別の教育支援計画について話し合う時間がとれない
.574	保護者と会う機会が少なく、情報交換の時間がとれない

「作成・活用による有用感」、因子Ⅱ「多忙による時間の制約」、因子Ⅲ「医療関係者における理解・協力の困難さ」、因子Ⅳ「障害や病気の特性による作成・活用の困難さ」の 4 因子が抽出された(表 1-1～表 1-4)。また、連携の実態については、因子Ⅰ「医療関係者との情報交換」、因子Ⅱ「保護者と教師の自由な情報交換」、因子Ⅲ「方法・手続きの明確化」、因子Ⅳ「転出後における関係者との共通理解」、因子Ⅴ「前籍校との情報交換」の 5 因子が抽出された(表 2-1～表 2-5)。

## 2 連携の実態が教師の認識に及ぼす影響

重回帰分析の結果、「作成・活用による有用感」について、「方法・手続きの明確化」が正の影響を、「障害や病気の特性による作成の困難さ」が負の影響を及ぼしていた。また、「保護者と教師の自由な情報交換」と「転出後における関係者との共通理解」は「多忙による時間の制約」に負の影響を及ぼし、「医療関係者との情報交換」は「医療関係者における理解・協力の困難さ」に負の影響

表 1-3 認識因子Ⅲ「医療関係者における理解・協力の困難さ」の測定項目と因子負荷量 ( $\alpha = .83$ )

負荷量	内容
.712	個別の教育支援計画について、医療機関が学校と協力しながら支援を行おうという意識が薄い
.682	個別の教育支援計画について、医療機関に協力を求めることが難しい
-.671	医療機関は、個別の教育支援計画について、教育の立場を理解した上で話し合いに参加している
.606	医療機関の都合により、医療機関と個別の教育支援計画について話し合う時間がとれない
-.550	医療機関は個別の教育支援計画の必要性を理解している
.464	個別の教育支援計画を活用する際、情報共有の内容や方法について医療機関と意識の差がある

表 1-4 認識因子Ⅳ「障害や病気の特性による作成・活用の困難さ」の測定項目と因子負荷量 ( $\alpha = .79$ )

負荷量	内容
.751	本人や保護者の障害・病気の受容の問題があるため、個別の教育支援計画を作成しにくい
.582	児童生徒の障害や病気の特性により、本人や保護者から個別の教育支援計画について理解を得ることが難しい
.513	医療情報をどこまで記載すればよいか判断に迷う
.456	保護者と、個別の教育支援計画の活用についての考え方にずれがある

響を及ぼしていた(表 2-6)。

## 3 学校や児童生徒の特性が教師の認識に及ぼす影響

分散分析の結果、昨年度、個別の教育支援計画について、全体での研修会や事例検討会の機会があった学校は、「作成・活用による有用感」が有意に高く( $F(1, 95)=13.56, p<.001$ )、保護者に説明をした学校は、「多忙による時間の制約」が有意に低いことが確認された( $F(1, 95)=5.04, p<.05$ )。また、対象児童生徒の病類により、「作成・活用による有用感」について有意差が見られた( $F(6, 92)=3.54, p<.01$ )。

## V 考察

上記の結果から、方法や手続きの明確化により、作成や活用による有用感をもち、病気や障害の特性による困難さが軽減されること、保護者との日常的な情報交換や、転出後についての関係者との共通理解が多忙感を軽減させること、個別の教育支援計画をツールとした医療関係者との情報交換により、協力体制が進むことが推察された。

また、教師の認識を高めるために研修の機会は有効であり(飯島, 2008)、研修によって、個別の教育支援計画の重要性を認識し、全員が共通理解

表 2-1 実態因子 I 「医療関係者との情報交換」の測定項目と因子負荷量 ( $\alpha = .80$ )

負荷量	内容
.773	対象児童生徒を担当する医療関係者に、個別の教育支援計画の支援内容やその成果について定期的に伝えた
.618	医療関係者との話し合いや情報交換に基づいて、個別の教育支援計画についての評価（成果や課題の検討）を行った
.593	こちらから要求しなくても、医療機関から定期的に情報が送られた
.547	対象児童生徒を担当する医療関係者に積極的に声をかけ、対象児童生徒の支援内容について協力を依頼した
.480	個別の教育支援計画の支援内容について、関係機関との役割分担は明確だった
.406	支援会議を行った（既存の会議に個別の教育支援計画の内容を取り入れている場合も含む）

表 2-2 実態因子 II 「保護者と教師の自由な情報交換」の測定項目と因子負荷量 ( $\alpha = .81$ )

負荷量	内容
.850	個別の教育支援計画について、懇談会等の決められた時間以外でも、必要に応じて保護者と情報交換を行った
.608	教師同士がもっている情報や意見について、自由に話し合える雰囲気の中で、個別の教育支援計画の話し合いを行った
.553	定期的に支援目標の達成状況を見取り、保護者と話し合いながら支援内容の検討を行った

表 2-3 実態因子 III 「方法・手続きの明確化」の測定項目と因子負荷量 ( $\alpha = .75$ )

負荷量	内容
.689	対象児童生徒に関わりのある教師全員で話し合い、個別の教育支援計画の支援目標を決定した
.598	個別の教育支援計画についての評価と修正の方法や手続きが具体的に決まっていた
.565	個別の教育支援計画について、保護者からの情報収集の方法や手続きが具体的に決まっていた
.466	担任から、前籍校に病弱教育における個別の教育支援計画の目的や内容について説明した
.435	転出校への個別の教育支援計画の引継方法は、あらかじめ具体的に決まっていた

しながら活用することにより、有用感が高まったと考える。更に、小中学校からの転入が多い病弱特別支援学校では、保護者への理解と参画を促進するため、説明の機会を十分とることが重要であること、病類による告知の問題や、教師の知識、経験の差が「作成・活用による有用感」に影響を及ぼすことが推察された。

## VI まとめと今後の課題

病弱特別支援学校では、病気の特性を踏まえ、一人で悩まない連携体制の整備や方法・手続きの明確化が必要であり、教師や保護者が協働で検討しながら積極的な活用と改善に努めること、前籍校に戻る児童生徒には、転出に向けた十分な話し合いや保護者への啓発が重要であることが明らかとなった。

教師の認識を高めるため、ニーズに沿った研修の内容や方法の検討が今後求められる。また、短

表 2-4 実態因子 IV 「転出後における関係者との共通理解」の測定項目と因子負荷量 ( $\alpha = .69$ )

負荷量	内容
.704	在籍中、転出後の対象児童生徒の支援内容について、前籍校と共通理解を図った
.537	在籍中に、転出後の対象児童生徒の支援内容について、医療機関と共通理解を図った
.440	転出後も、対象児童生徒の支援について前籍校の担任と連絡を取り合った

表 2-5 実態因子 V 「前籍校との情報交換」の測定項目と因子負荷量 ( $\alpha = .73$ )

負荷量	内容
.665	個別の教育支援計画について、会議や決められた文書のやり取り以外でも、必要に応じて前籍校と情報交換を行った。
.534	対象児童生徒の在籍中、前籍校に個別の教育支援計画の支援内容やその成果について定期的に伝えた

表 2-6 個別の教育支援計画をツールとした連携の実態と個別の教育支援計画に対する教師の認識との重回帰分析結果

独立変数	従属変数			
	作成・活用による有用感	多忙による時間の制約	医療関係者における理解の困難さ	障害や病気による特性による作成・活用の困難さ
医療関係者との情報交換	.034	.074	-.453***	.027
保護者と教師の自由な情報交換	.115	-.213*	-.146	-.011
方法・手続きの明確化	.374***	-.098	.043	-.236*
転出後における関係者との共通理解	.096	-.263**	-.138	.065
前籍校との情報交換	-.039	-.110	.111	.180
重相関係数	.419***	.391**	.523***	.304*

\*\*\* $p = .001$  \*\*  $p = .01$  \*  $p = .05$

期在籍のケースにおける具体的な作成・活用方法に加え、長期在籍の児童生徒も含めた活用方法についての検討が必要である。紙面によらない顔と顔を合わせた連携の必要性も示唆されたことから、よりよい関係作りのためのコンサルテーションやコーディネーションの知識や技術の向上も、今後病弱教育に携わる教師に求められるだろう。

## 文献

- 飯島知子 (2008) 小学校通常学級における発達障害の特性を生かした授業改善—特別支援教育コーディネーターの行う「校内研修会」からの検討—。特別支援教育コーディネーター研究, 4, 1-11.
- 村上由則 (2006) 小・中・高等学校における慢性疾患児への教育的支援—特別支援教育の中の病弱教育—。特殊教育研究, 44(2), 145-151.
- 菅野和恵・一木薫・佐藤匡仁・西川公司・篠原吉穂・皆川春雄 (2007) 個別の教育支援計画の策定と活用の実態に関する調査報告。筑波大学学校教育論集, 29, 73-82.